

授業を基にしたJSLカリキュラムの指導展開・指導方法等の理解

東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 秋山 寿彦

中学校社会科JSL学習指導案

『新聞スクラップ、私にとって最も「地理的」な1枚』

- 1 授業日時 平成21(2009)年11月4日(水) 第6校時 14時30分～15時20分
- 2 授業教室 総合メディアセンター
- 3 対象学級 第1学年1組 27名<男子12名(海外教育体験生徒6名)、女子15名(海外教育体験生徒11名)>
- 4 本時の主題 『新聞スクラップ、私にとって最も「地理的」な1枚 ～ Lets find a geographical article in your scrapbook～』
- 5 本時の設定にあたって

新聞を学校の教育活動に取り入れていこうという活動は、NIE(教育に新聞を取り入れよう!)として教科や総合的な学習の時間を中心として広がりを見せている。新聞は、生徒にとって世界や日本の動きを知るための身近にある教材といえる。また、新聞は、生徒一人一人が興味や関心をもっていることについて理解を深めていく手がかりを与えてくれる身近な学習材ともいえる。

しかし、21世紀に入り、携帯電話やインターネットの急速な普及によって情報源として新聞が獲得していた地位には、大きな変化が見られる。

2007年4月に行った本校生徒に対する調査では、毎日、新聞を手にとって読むという生徒は、約15%であった。特に、朝は、テレビの情報系番組で紹介される新聞の一面記事紹介でニュースは知るが新聞そのものは読まないという生徒が約60%を占めた。また、新聞を定期購読していないというものも約8%あった。定期購読しない理由としては、速報性という点では、インターネットに新聞は及ばないから、わざわざお金を支払って購読する必要はないという理由が挙げられた。新聞が提供する主張を明確にした広がりや奥行きを有する情報に十分に触れることなく、ネットに強く依存する傾向をみせる生徒に、あらためて、一人一人の学習にとって、新聞がいかに身近で、有効な学習材料であるのかということが実感としてとらえられるように、本校では、新聞スクラップ活動を社会科を中心に教科の学習及び国際教養の学習に取り入れている。

また、新聞スクラップ活動においては、生徒が多くの記事の中から、自分にとって興味・関心を持つことができるものを切り抜くということを活動の原点としている。そして、スクラップブックに記事を集積していく過程で、見出し(インデックス)を作成し、分類していく学習の過程を重視している。ただし、環境(持続可能な発展)・アフリカ・戦争・衆議院議員総選挙については、社会科(基礎地理)及び国際教養の学習として5月下旬に実施した国内ワークキャンプとの関連から見出しを作成するように指導した。

6 新聞スクラップ活動に取り組む生徒の実態

新聞スクラップ活動に恒常的に取り組むことは、「忙しい」日常生活を送る生徒にとってなかなか大変なことである。しかし、何度、途中で挫折しても、「新聞は、また明日、配達されるから、明日からまた始めよう!」・「思いもかけない面白い情報を発見することができるかもしれないよ。」と声を掛け続けている。さらに、「先生に言われたからとか、社会科でよい成績を取るために新聞記事をスクラップするのではなく、自分にとって本当に興味が持て、面白いと思える記事をスクラップすることが大切なんだよ。」・「国際バカロレアのMYPカリキュラムを取り入れているこの学校で学んでいくときに、新聞スクラップ活動を通してさまざまな教科で学習していることを自分なりに相互に関連づけて、自分の学びを広げ、深めていき、4年生で行うパーソナルプロジェクトの課題のタネを発見できるとすごいね。」とも言い続け、指導を展開している。

生徒は、新聞スクラップ活動に継続的に取り組んでいくことによって、自分がどのようなことに興味・関心を抱いている中学生なのかということを自覚的にとらえることができるように成長していく。

また、本校の「海外教育体験生徒」のなかには、日本語の新聞を読むことに困難を感じる生徒もいる。そのため、現在、本校メディアセンター(図書室)では、DAILY YOMIURIとHerald Tribuneの2紙を国内一般紙と共

に購読し、常時、生徒が手にとって閲覧することができる環境を司書教諭が整えている。

日本語の学習環境から長く離れた「海外教育体験生徒」や日本語の習得をめざしている外国人生徒にとって、新聞記事を読みこなすことは、決して容易であるとはいえない。しかし、ニュースや話題の人物、宣伝などの写真、マンガ等の視覚に訴える情報を活用することによって、社会科地理的分野が学習対象とする日本や世界の地域に近づいていく手がかりを獲得できる。さらに、同じ内容を取り扱っている新聞記事を習得している言語で書かれている新聞と日本語の新聞で対比してみるという活動を試みていきたいと考える。

新聞スクラップという学習活動を、生徒一人一人が黙々と新聞記事を切り抜くという孤独な活動にしてしまってはならない。記事を書いた記者との対話、生徒と教師の間の対話、本時のグループ学習のように生徒の相互対話や生徒の「自己内対話」というバリエーション豊かな対話型学習を成立させていくことができるという点に新聞スクラップ学習の大きな特徴があると考えられる。

さらに、本校では開校以来、学習指導要領で重視される言語活動の充実、活用型の学力形成をめざし、新聞スクラップ活動を通して、自分が感じたことや考えたことを各種の作文（エッセイ）コンテストに向けて表現・発信していく活動に取り組み、海外教育体験を有する生徒がJICAエッセイコンテスト、産経新聞環境作文コンテスト、TICAD・アフリカ作文コンテスト等で入賞する成果を収めた。そして、日々、自分の思いや願いを新聞各紙の読者の投稿欄等へ積極的に表現・発信していくことを学校・社会科として支援している。本実践の対象とする学年でも、本年、8月12日の朝日新聞、読者の投書欄・「声」に投稿が掲載された生徒も出た。

7 JSL対象生徒の社会科学学習に取り組む実態

N・K（女子）は、アメリカ合衆国サンフランシスコで小学校生活を送っていたため、日本語による学習環境の中で社会科を学んでいくことに、本人及び保護者共に入学前から不安を感じ、「取り出し指導」の実施を希望していた。地理的分野の学習では、世界の諸地域の学習を先行させ、日本の諸地域の学習は、学年後半からおこなうことや地図帳、映像教材、新聞記事などさまざまな教材を活用し、最終的に教科書に記述されている学習内容の理解へと到達することができるようになるためにノート作成指導を中心とした「個に対応した学習指導」を授業のなかでも取り組んでいくことを説明し、学級で学習していくこととなった。生徒本人は、第1学期は、地理的用語や概念等の学習内容の理解に関して、日本語で捉えていくことにやや戸惑うこともみられた。また、ノート記述にも時間を要するとともに、単語レベルでの記述に止まり、文章レベルでの記述が困難な面がみられた。しかし、学習意欲と認知理解力がかなり高いことから、日本語指導教員に社会科に関する日本語理解の課題を確認し、自分にあった学習方法の習得にすすんで努力する姿勢を絶えず持ち続けている。

また、新聞スクラップ活動では、英字紙を切り抜き、日本語で感想をまとめることに取り組んでいるが、夏休みからふりがながある小学生向き新聞を読むことに自分からチャレンジし始めている。

J・S（男子）は、東京韓国学校で小学校生活を送ってきた生徒で、両親ともに韓国人である。生活言語としての日本語は、十分に習得して、友達とのコミュニケーションなどにおいては大きな支障はみられない。

しかし、学習言語、特に、社会科で必要とされる用語や抽象的な概念を表す日本語を用いて思考、表現していくことに課題が残されている。授業に対しては、自分が気づいたことをすすんで発言していく積極的な態度がみられる。発言する意欲と力を書く力へとつなげていくことに焦点を当てた指導のあり方を工夫していくことも求められる。

また、新聞記事をスクラップしてみるのだけれども、記事に関するコメントを文章でまとめていくことに時間がかかるためか記事をはりつけることに止まっているケースが多く見られる。

F・R（女子）は、ブラジルのインターナショナルスクールで学んできた学習歴を有する生徒で、自分のブラジルでの体験によい意味でこだわりをもち、世界や日本に対する認識を深めていこうとしている。授業に臨む姿勢は、J・Sと同じく積極的で発言も多い。日本語を用いてノートや新聞スクラップブックを作成することにも意欲的に取り組んでいるが、社会科学学習に関わる語彙がやや不足しているため、学習内容が変わってもF・Rなりの定型化した印象や感想を中心とする文章表現がなされている状況が見られる。グループ活動を取り入れた学習において、友達の発言をていねいに聞き取ることを大切にして、日本語による表現力と思考力を豊かにしていく指導を試みる必要がある。

※ 菅原雅枝（本校日本語講師）が作成した資料「平成21年度JSL対象生徒への対応」参照

8 本時のねらい

- ・ ニュースを取り扱うテレビ番組との比較を通して、新聞が持つメディアとしての特性に対する理解を深める。

- ・ 作成しているスクラップブックの中から、地理学習に関わる新聞記事を見つけ出すことができる。
- ・ 「地理的」ということを切り抜いた新聞記事を活用して、地域的・空間的な広がりや自然・産業・民族・文化等にみられる特色に着目して説明することができる。

9 本時の展開

	展開	支援	留意点
導入	今朝、新聞を読んできましたか。(支援1)	(支援1=理解支援・視覚化) 朝日・読売・毎日・産経・東京と英字紙を提示する。<具体物>	挙手により、新聞を読んだ人数を確認。 メディアセンターの新聞閲覧コーナーを確認する。
展開1	新聞各紙の一面を見ましょう。(支援2) どのようなニュースが掲載されているでしょうか。(支援3) テレビでは、今朝のニュースをどのように伝えているのでしょうか。(支援4) TBS・みのもんたの朝ズバとNHKニュースを視聴してみましょう。 世界の国々のテレビは、今朝、どのようなニュースを伝えているのでしょうか。(支援5)	(支援2=理解支援・対比) 各紙の一面を比較する。 (支援3=表現支援・言語表現) 「新聞が伝える今朝のトップニュースは、・・・」 (支援4=表現支援・表記表現) 「私にとっての今朝のトップニュースは、・・・」 (支援4=自立支援) 「あなたが切り抜いてみたいと思う記事は・・・」 (支援5=理解支援・明示) 「CNN、韓国、中国のニュースを視聴してわかったことは・・・」	英字紙にも注目させる。 記事の見出しだけではなく、写真にも注目させる。 情報系番組と報道番組、新聞とのニュースに対するまなざしの共通点と相違点にも注目させる。 グループで話し合う。 海外の国々の視点に注目させる。
展開2	自分が作成している新聞スクラップブックの見出しに見てみましょう。(支援6) 基礎地理の学習と関係がある見出しを見つけましょう。(支援7)	(支援6=情意支援) 地理的分野の学習に直接かかわらなくても多様な視点からオリジナルな見出しが作成されている点を評価する。 スクラップブックの主な見出しを板書 (支援7=記憶支援・グループ化) 環境、人口、食、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ合衆国、中国に関する見出しや記事があるかを確認する。	新聞スクラップと教科の学習の関連を意識させる。 地理的分野の教科書とノートとスクラップブックを対比させる。
まとめ	自分が作成している新聞スクラップの記事のなかで「最も地理的だ」と考えているものを1枚選んでください。(支援8) 「最も地理的だ」と選んだ記事を紹介してください。(支援9)	(支援8=理解支援・言い換え) 「地理的」という意味を、具体例、比喻、対比、例示を通して確認する。 (支援9=記憶支援・物語化) 記事内容から頭に思い浮かんできたことを発表する。	「地理的」という意味をグループで話し合いながら記事を選ぶ。

10 本時の評価

- ・ テレビや他国との比較を通して、新聞の特性に目がむいたか。
- ・ 教科(特に、社会科地理的分野)学習との関連から新聞スクラップ学習の目的に対する理解が深まったか。
- ・ 「地理的」という概念を具体的かつ豊かにイメージすることができるようになったか。